

## 令和7年度【大田区立東調布第一小学校・体育科授業改善推進プラン】

### ◎ 小学校体育科における分析

児童の実態		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	低	日常生活での運動量の差によって、上達や技の習得の速さに差が表れている。 夢中になると、安全に気を付けずに活動する児童がいる。	運動遊びなどで、個々で考えながら活動することはできているが、規則を工夫したり友達の良い動き方を見付けたりする児童が少ない。	体を動かすことが大好きで主体的に取り組む児童がいる反面、苦手な種目やできないことに対して挑戦しない児童がいる。
	中	基本的な技能を身に付けている児童が多いが、運動の内容によって個人差が大きい。 健康・安全に対する知識を理解し、生活場面でも意識して行動できている児童が多い。	課題を見付けることはできるが、どのように解決していくかの方法を選ぶことができる児童が少ない。	体育への関心は高く、意欲的に体を動かす児童がいる反面、苦手な運動領域によっては、挑戦しようとならない児童がいる。
	高	基本的な技能を身に付けている児童が多いが、運動領域によっては技能差が大きくなる傾向がある。 安全・健康に対する知識を生活の中に十分に生かしてない児童がいる。	友達の良い動き方を見付けたり、チームで工夫して運動したりしている姿も見られるが十分ではない。 自己の課題に合わせた活動の場を工夫できない児童が多い。	体育への関心は高く、意欲的に体を動かす児童がいる反面、苦手な運動領域によっては、挑戦しようとならない児童がいる。

### ◎ 体育科の課題

- ・授業における運動量、日常生活における運動機会の減少。
- ・ICT 機器を効果的に活用した授業づくり。
- ・個人やチームの課題を見付け、その課題を解決する力の育成。
- ・運動の基礎・基本となる技能、各領域の技能向上。
- ・安全・健康に関する知識を習得し、日常生活において活用・実践する力の育成。

### ◎ 体育科における昨年度の授業改善推進プランの検証

#### 取組における成果◇と課題◆

◇教員間の積極的なコミュニケーションにより共通理解が向上し、指導内容の統一性や効果が高まった。

◇体育朝会において、長なわ、短なわと持久走を実施することで、自分たちで主体的に練習に取り組んだり、互いに声を掛け合って楽しんだりしながら運動する様子が見られた。

◇◆ICT 機器は特定の場面では活用されていたが、効果的に活用できる場面をもっと模索していけるとよい。

◆実技研修や相互の授業観察等を行う機会は少なかった。

### ◎ 体育科の具体的授業改善案

○校内研究会において今年度は「こどもたち一人一人の運動量を確保した授業づくり」をテーマに研究していく。学校全体で、児童の運動量を確保するための各授業での取り組みを模索していき、授業力改善に努めていく。

#### ○実技研修等の実施

校内研究と合わせながら、指導法や場の設定の工夫などを教員間で情報共有をしていく。

#### ○ICT 機器の効果的な活用

今年度、研修会や指導教諭模範授業などで活用されていたものを、各学年クラスの実態に合った形で、取り入れていく。